

中津川遺跡 (なかつがわいせき)

所在地：石岡市中津川平足塚 229 番地

調査期間：令和4年8月1日～令和4年10月31日

調査面積：1,152 m²

委託者：国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所

調査原因：一般国道6号千代田石岡バイパス建設事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団 (石岡事務所)

Tel: 029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>



HP

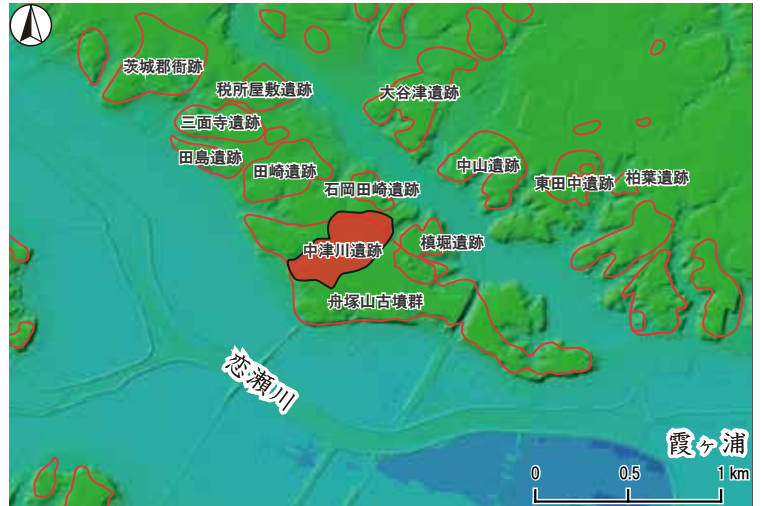


Twitter

遺跡の概要

中津川遺跡は、石岡市の南東部、恋瀬川左岸の標高約15mの台地上に位置しています。

縄文時代には現在の霞ヶ浦は内海となっており、当遺跡の近くまで海岸線が入り込んでいたと考えられます。これまでの調査では、縄文時代～平安時代の集落跡や、中・近世の屋敷跡、墓域、道路跡などが確認されています。



中津川遺跡と周辺遺跡 (茨城県遺跡地図をもとに QGIS で作成)

調査の成果

今回の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡 2 棟と貯蔵穴 40 基以上、弥生時代後期の竪穴住居跡 2 棟と土坑 3 基などを確認しました。

縄文時代の遺構は、いずれも出土した土器から中期 (約 4,500 年前) と考えられます。竪穴住居跡では、中央付近からまとまって土器が出土しました。これらの土器は、住居が使われなくなり、ある程度埋没して窪地状になったところに廃棄されていることがわかりました。数多く確認した貯蔵穴は、堅果類 (クルミやドングリなど) を保存するための施設と考えられています。これらの貯蔵穴からもたくさんの土器が出土していますが、竪穴住居跡と同様、ある程度埋没した段階で廃棄されています。また、ハマグリ・サルボウ・オキシジミ・ウミニナなどの貝殻を中心とした地点貝層も確認しました。当時の生活の一端を知る上で貴重な発見となりました。

弥生時代の遺構は、いずれも後期 (約 1,800 年前) と考えられます。土器などのほか、土製の紡錘車などが出土しています。当遺跡の南東に広がる榎堀遺跡では、集落跡が確認されていることから、その関連がうかがえます。



竪穴建物跡の調査 撮影に向けて清掃中。撮影写真は裏面右上。

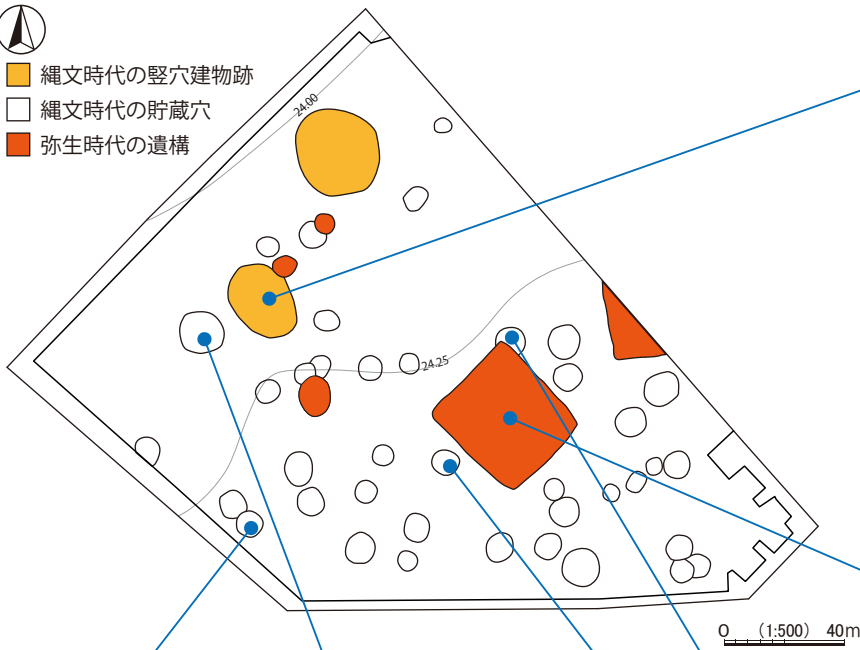


貯蔵穴の調査 撮影に向けて清掃中。撮影写真は裏面右下。

主な遺構・遺物



- 縄文時代の竪穴建物跡
- 縄文時代の貯蔵穴
- 弥生時代の遺構



縄文時代中期の竪穴建物跡



弥生時代後期の竪穴建物跡



貝殻が廃棄された貯蔵穴



土器を発見!!
慎重に調査中。



大人2人が入って調査中。
しゃがむと、すっぽり入ってしまうほどの深さ。



底面中央に柱穴、脇に小土坑をもつ貯蔵穴



深鉢と浅鉢が捨てられた貯蔵穴



出土記録を作成後、土器を慎重に取り上げたよ。



まとめて土器が廃棄された貯蔵穴